



# 病弱・虚弱

## 病弱・虚弱とは

「病弱・虚弱」とは、慢性的な呼吸器疾患、腎臓疾患、神経疾患、悪性新生物、その他政令で定める疾患及び身体虚弱の状態が長期間にわたる、または長期間にわたる見込みのもので、医療や生活規制が必要になるものです。

病弱・虚弱の学生は、本人が申告しないかぎり外見からは健康な学生と区別がつかない場合が多いです。また、同じようなケースが少ないため、共感し合える友人が少なく、体調不良や様々な制限・制約による学生生活がうまくいかなかった時などに心理的に孤独に陥りやすいことがあります。本人、支援担当者、教職員、主治医とプライバシーを守り、連携を取りながら、学生が安心して大学生活を送れる環境づくりを整備していくことが大切です。

## ●分類と説明

種類	病名	説明
	過敏性腸症候群	お腹の痛みや不快感に下痢や便秘を伴う症状が続く病気
	クローン病	大腸及び小腸の粘膜に慢性的な炎症または潰瘍をひきおこす原因不明の疾患
	食物アレルギー・アナフィラキシー	食物アレルギーとは特定の食物を摂取することによって、皮膚や呼吸器、消化器、あるいは全身性に生じるアレルギー反応のこと。また、アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛、嘔吐等の消化器症状、喘鳴、呼吸困難の様な呼吸器症状など複数の症状が同時に出現した状態をアナフィラキシーという。重症例ではショック症状をおこし、生命の危険な状態に至ることもある。
	インスリン依存性糖尿病	膵臓からのインスリンの分泌が無いため、糖の利用ができない疾患。無治療の場合、高血糖、尿糖が見られ、次第に多飲・多尿・体重減少が出現し、最終的には意識障害に至る。
	てんかん	様々な原因で起こる慢性的な脳疾患。けいれん等の繰り返す発作（てんかん発作）を主な徴候とする。てんかん発作には色々なタイプがあるが、意識消失を伴う強直間代発作（大発作）が最も多く見られる。

## 病弱・虚弱の人の困難さ

個別性が高いので一概にはいえませんが、抵抗力の低下などにより、病気にかかりやすい場合があります。また、回復が遅くなることもあり、学校生活や社会生活をおくる上で、活動が制限されてしまう場合もあります。本人が申告しない限り健康な学生と区別がつかないことも多く、誤解を招いてしまうようなこともあるかもしれません。場合によっては、長期欠席等により周囲が気づいて把握されることもあります。“困難さが分かりにくいこと”が最大の困難さであるといえるでしょう。

## ●困難の具体例

時期	内容
入学まで	感染症等のおそれがある 実技等の履修への不安を抱えている
学習	(授業) 通院等で授業を休むことがある (体育等) 運動制限のため実技の種類によってはできないことがある
環境整備	周囲の人の病気の理解不足 / 移動に支障があることもある 発作等の対応の仕方が不安である
就職活動	病気や特性に応じた職業選択に必要な情報が不足している
学生生活	周囲の人の病気の理解不足が不安である。心理的な孤立に陥りやすい
災害時	薬剤の入手困難 避難環境が劣悪な場合がある 非常食にアレルギーとなる食品が含まれることもある

障害のある教職員の困難の具体例：別室で休憩するスペースがない

## 病弱・虚弱の人への支援

受信や体調不良、発作等で授業に出席できない場合があります。また、授業中でも急に具合が悪くなり、退席しなければならないこともあるかもしれません。主治医や保険診療所の診断書・意見書等に基づいて、配慮や支援を検討する必要があります。場合によっては、緊急時の対応方法を情報として共有しておくことも大切です。

### ●対応・配慮の具体例

時期	物的支援	人的支援	環境調整	その他
入学まで (入試など)	必要備品の準備 受け入れマニュアル 整備	介助者の配置	別室受験の実施 室温調整	相談窓口の明確化 合否判定への影響否定 特別措置
学習	必要備品の準備 休養室等の用意	授業担当教員への周知 介助者の配置	履修計画支援 <sup>*1</sup> 使用教室の配慮 定期検診、通院等にかかる欠席の 取り扱い 活動制限（体育実技等）に応じた 授業内容や評価方法	代替授業・課題等 <sup>*2</sup>
環境整備	(周囲の)受け入れ マニュアル作成	支援スタッフ養成講座	連絡網等の整備 休憩時間の確保	エピペン <sup>®</sup> の代理接種等 の対応および啓発 <sup>*3</sup>
就職活動	休養室等の用意	個別相談会	外部機関との連携 就職セミナーの情報の詳細な伝達	—
学生生活	休養室等の用意	個別相談	キャンパスライフ・健康支援セン ターとの連携、主治医との連携	エピペン <sup>®</sup> の代理接種等 の対応および啓発 <sup>*3</sup>
災害時	緊急時対応マニュアル 作成	医学的ニーズの把握 避難方法の計画 避難訓練の実施	キャンパスライフ・健康支援セン ターとの情報共有 災害拠点病院等との仲介 緊急時の連絡体制（安否確認）	学生の居住地の自治体と 災害時避難体制の連携

\*1 学生自身が履修の見通しが持てるように実技や実習・演習内容・方法を提示、代替内容等の準備や配慮事項を明示

\*2 通院等にかかる欠席の取り扱いについて

\*3 医師の治療を受けるまでの間、アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤

**障害のある教職員への対応・配慮の具体例：休憩室の確保に努めるとともに、臨時的休憩スペースを設ける 等**

### ●支援のポイント

病弱・虚弱の学生は、病気の理解不足、実技等の履修に不安を抱えています。入学・授業までに疾患の特性や配慮事項、緊急時の対応方法、服薬状況、最寄りの医療機関、主治医・保護者の連絡先等必要な情報を得て、支援を検討、受け入れマニュアルの作成・整備・シミュレーションを実施することが大切です。

病弱・虚弱の学生は決して少なくありません。ただ、その全ての人に対して、大学での配慮や支援が必要なわけではありません。見て分かる障害でないことが多いので、基本的には学生本人からの申し出によって対応を検討することになります。申し出があった場合は、医師や専門家の判断を仰ぎながら配慮・支援を慎重に判断していくことが望めます。

### アビリティ

周りが分かってくれない状態で、自分で頑張りすぎて空回りしないように、気づかせるためのサインを出す。  
(九州大学障害のある卒業生体験談より)

## 関連情報の入手先

福岡県難病相談・支援センター

[www.med.kyushu-u.ac.jp/nanbyou/center/](http://www.med.kyushu-u.ac.jp/nanbyou/center/)